

國學院大學學術情報リポジトリ

出張報告「研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」による史料調査」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000550

出張報告

「研究事業『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と 国学史像の再構築」による史料調査

2018年度の研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」の一環として、2018年8月25日から翌26日にかけて、神宮文庫（三重県伊勢市）と西尾市岩瀬文庫（愛知県西尾市）にて史料調査を行った。近世・近代の国学・神道・宗教関係人物に関わる貴重資料の調査・収集を行うことが今回の調査の目的であった。調査に参加したのは、齋藤公太（日本文化研究所助教）、丹羽宣子（同ポスドク研究員）、原田雄斗（同研究補助員）の3名である。

まず8月25日は神宮文庫にて調査を行った。調査の対象となったのは以下のような史料である。それぞれ内容についてノートを取り、一部の史料に関しては撮影を依頼した。

・『神祇令略註』、『神祇令解』

近世後期の神宮祠官であり、鈴門の重要な国学者であった足代弘訓の神祇令についての注釈書。『神祇令解』は自筆稿本である。当時の鈴門における大嘗祭観などがうかがえる。

・『古代近世神都名人略伝』

中西弘綱編による伊勢の著名な人物に関する略伝集。全3冊の自筆稿本である。序文は明治25年5月。とりわけ第2冊には足代弘訓の詳細な伝記を収める。

・『祭典作法』（明治29年）

斯道館から刊行された平田集枝の著作。明治期に統一された神職の作法を図入りで解説している。

・『神道解』（明治39年）

全12頁からなる冊子であり、笠原昌吉の著

作。序文は井上頼圀が執筆している。明治期における神道観や神道解釈、同時代における「真心」という言葉の使用法をうかがい知ることができるものである。

・『社家の庭訓』（昭和15年）

昭和14年、神職講習会で著者である金原利道が行った講演の草稿。昭和前期の史料ではあるが、著者の幼少期に行われていた社家における家庭教育、また子弟育成のための女性の役割をうかがい知ることができるものである。

8月26日は愛知県西尾市に移動し、西尾市岩瀬文庫にて以下のような史料を対象に調査を行った。それぞれ内容についてノートを取り、一部の史料に関してはマイクロフィルムからの複写を申請した。

・『官位古式叙任考』

幕末～明治期の三河国の平田派国学者・羽田野敬雄の著作。古典に見られる官位叙任の記述に関する考証。

・『神道本義論稿』（文久3年）

三河国舞木の神職・国学者であった竹尾正胤の著作。幕末におけるあるべき神職像について記されており、竹尾の思想が明らかになるだけでなく、江戸～明治の移行期における神職像についてもうかがい知ることができる。

・『教会筆記』（明治8年）

熱田神宮の宮司などを務めた平田派国学者・角田忠行が、教導職時代に徴兵令について行った説諭の講義録。

・『鈴廼屋靈祭歌集』（明治8年）

小中村清矩の書写本と推定される。本居宣長の靈祭の参加者と、そこで読み上げられた和歌や祝詞が記載されている。

・『陽春廬漫筆』

小中村清矩の履歴書原稿など、様々な原稿を合綴したもの。

・『僧尼考（稿本）』

明治国学の中心人物であった小中村清矩による、古来の僧尼制度に関する概説書。僧尼得度受戒、僧位、僧官などについて記されている。自筆稿本であり、訂正書入が多数あるため、本書の成立過程を知ることができる。

・『男女頭髮沿革考』

幕末～明治期の尾張国の国学者・田中尚房の著作。男女の髪型についての考証。上巻は男性、下巻は女性を扱い、画を能くしたとされる尚房直筆の絵も多く挿入されている。

・『藤園襍誌』

書名は旧目録による。池辺義象の原稿を合綴したもの。「福羽美静上奏文」、「祝詞につきて」、「現文部大臣の国語科の説に就て」など貴重な資料を収録。

・『千代のかたみ』

池辺義象の自伝である「千代のかたみ」（明治17年）など、貴重な原稿を多数合綴したもの。

・『文稿』

「神皇正統記をよみておもふ事」など、東大古典講習科時代の池辺義象の国文学に関する原稿を合綴。

・『万葉集講義録』

東大古典講習科における木村正辞の『万葉集』の講義を池辺義象が筆記した講義録。

・『〈本居先生講述〉古事記続紀宣命筆記』

東大古典講習科における本居豊穎の『古事記』と『続日本紀』「宣命」の講義を池辺義象が筆記した講義録。

・『飯田先生 日本紀講義教場筆記』（明治16年）

東大古典講習科における飯田武郷の『日本書紀』の講義を池辺義象が筆記した講義録。

・『立太子古礼』

「〈大嘗会ニ於ル〉天神寿詞評釈」（明治22年）など、皇室儀礼に関する池辺義象の原稿を合綴。

・『宮廷典故』（明治22年）

池辺義象による皇室制度の概説書の自筆稿本。

・『大行天皇ヲ悼ミ奉ル詞』

池辺義象による明治天皇関係の原稿を合綴したもの。

・『喪葬令摘註』

表題の葬祭令についての注釈の原稿（明治45年）の他、「神器考略」「神社ノ事ニ付建言」など、神道・神社関係の池辺義象の原稿を合綴。

・『大礼愛知県記念録』（大正5年）

御大礼愛知県奉祝会編。大正4年に行われた大正天皇の大礼における愛知県の動きを、準備から大礼後（大嘗祭後）までまとめたもの。

以上の調査に引き続き、2019年3月7日から8日にかけて、齋藤単独での史料調査も行った。調査先は西尾市岩瀬文庫である。

この出張では『国学名牒』、『小中村先生雑録』、『見聞雑録』、『木村日誌』など、主に明治国学関連の史料を対象として調査を行った。

以上、今回の出張により、多くの貴重な史料を調査・収集することができた。これらは今後近世・近代の国学・神道関係人物の思想や人物情報、交友関係を解明し、研究事業を遂行していく上で役立てられるだろう。

（齋藤公太）